

## あいさつは親切の第一歩

山口県 島田小学校 5年 濱田 芽衣

私が朝、学校に登校しているときの事です。前からおじいさんが歩いてきました。私は、「おはようございます。」

と言いました。しかし、返される返事もなく、おじいさんは通り過ぎて行かれました。

私はそのとき、悲しい気持ちでいっぱいになりました。「言霊」という言葉を、4年生のときに担任の先生が教えてくださいました。言葉には霊(たましい)が宿っているということです。例えば、元気にあいさつをしたら、体の中から元気がわいてくるし、「きらいだ」「いやだ」と言い続けていると、ネガティブな気分になってきます。この場合は返事をしてもらえなかったので、言霊とは少し違うのかもしれませんが、返事をしない、無視をするということは、最も悲しい言霊かもしれません。

もし、おじいさんがあいさつをしてくださっていたのなら、私はその日一日、うれしい気持ちですごせたかもしれません。そのできごとを経験してから、私は常に『明るいあいさつ』を心がけています。

その日の帰り道、別のおじいさんが自転車に乗っていました。私は、

「こんにちは。」

と言いました。けれども私は心のどこかで、(自転車に乗っているし、あいさつは返ってこないだろう)と感じていました。しかし、そのおじいさんは、

「こんにちは。おかえりなさい。」

と、明るく言ってくださいました。私の心は、パッと明るくなって、改めてあいさつの大切さに気づきました。

その夜、私は朝のできごとを兄に話しました。すると兄が、

「無視されると、残念な気持ちになるよね。」

と言い、お互いに気をつけようと心に決めました。

今まで幸いにも、私があいさつをすると、知らない人でも、「おはよう」「こんにちは」と返してくださいました。もちろん、友達や先生方もです。だから、その朝のできごとはわたしにとって、とても悲しくてつらいことでした。けれど、兄も同じような経験を何度もしていると言っていたから、世の中には、あまりあいさつをしない人がいるのだなと思いました。

でも、時間が経ってみて、もしかしたら私の声が小さかったのかもしれないし、おじいさんも急いでいたり、耳が遠い方だったのかもと思い直しました。

あいさつを返してくれないからといって、その人に次からあいさつをしなかったり、悪く言うのは違うと思います。「あいさつは親切の第一歩」と聞いたことがあります。確かに、まずあいさつをすることが、お互い心を開いたり、通わせるきっかけになったりします。

私は5年生だから、これから世界がいっぱい広がりますが、どんなときもだれとでも、あいさつをたくさんして、みんなの心が温かくなったらいいなと思います。